

大分県別府市でリーサスを活用した政策立案ワークショップを開催しました

平成29年1月

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

内閣府地方創生推進室

経済産業省九州経済産業局

大分県別府市にて、観光・経済政策に携わる職員を対象に、「地域経済分析システム（RESAS）」を活用した政策立案ワークショップを下記の通り開催しました。観光分野の専門家である日本交通公社 観光政策研究部 山田雄一次長の参加を得て、別府市の課題を見える化した上で、密な意見交換を行い、観光で地域にお金を呼び込み、循環させる政策を企画・立案することの重要性について職員が考える契機となりました。

記

1. テーマ : 「観光パイオニア都市の再成長に向けた施策の検討」
2. 日時場所 : 平成28年10月18日（火）、別府市役所、5階大会議室
3. 主催 : 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局
内閣府地方創生推進室
共催 : 経済産業省九州経済産業局
4. 参加者 :
 - ・別府市 市長、副市長、職員（ONSEN ツーリズム部、政策推進課）
 - ・別府市旅館ホテル組合連合会
 - ・別府商工会議所
 - ・別府市観光協会
 - ・日本交通公社 観光政策研究部次長 山田雄一氏
 - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局職員
 - ・経済産業省地域経済産業グループ職員
 - ・経済産業省九州経済産業局職員
5. 議事次第
 - ① 自治体職員によるリーサス分析結果発表
 - ② 有識者によるリーサス分析結果発表
 - ③ 政策ディスカッション

1. ワークショップ実施の背景

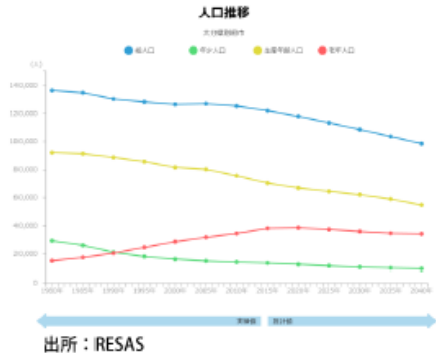
- ・別府市は、港町の湯治場からはじまり、温泉都市へと発展してきた独自の歴史があり、100年以上に渡り観光を起点に外貨を獲得、それを反映した独自の産業構造（サービス業に特化、医療などの集積）が形成され、独自の成長を続けてきたが、様々な環境の変化によって伸び悩んでいる現状がある。
- ・国内旅行マーケットの縮小（市場獲得率の低下）、高齢化に伴う旅行への消費減少、競合観光地による市場獲得率の低下、域内バリューチェーンの希薄化、地域経済循環率の低下（地産地消とコストの関係）などが課題となっている。
- ・そこで、リーサスや他の統計データを活用した分析によって別府市の観光関連産業や経済を客観的にとらえ、地域により波及する産業政策のあり方についてディスカッションを実施した。

2. 議論のポイント・得られた結論・今後の展開

- ・RESASの分析によると、別府市の産業の特徴は、地域における生産額が最大かつ移輸出入収支がプラスであるのはサービス業で、生産額に占める第3次産業の割合は91.1%と全国的に見ても圧倒的に高いということがわかる。
- ・観光動態調査からの分析では、観光客総数及び宿泊客数は増加傾向にあり、宿泊客数のうち外国人宿泊客数の占める割合が11.38%と増加。
- ・大分県のホテル稼働率は全国平均を下回っており、ミスマッチまたは供給過多の状況が見える。宿泊業の労働生産性向上には、ピーク時ピークオフ時の差を無くし、安定した高い稼働率を保つことが重要といえる。
- ・大分を訪れる外国人観光客の85%は福岡空港を利用しており、大分県だけを目的地とせず、電車・バス・レンタカー等の移動手段を使って九州内を周遊している可能性が有る。
- ・RESASの地域経済循環マップを確認すると、サービス業の移輸出入収支の状況からも、支出が地域外にむかっていることが深刻であり、総支出のマイナスは、政府支出の需要と地域内での供給がミスマッチを起こしていると考えられる。
- ・マーケティング力の強化により、流動人口の増加に合わせて、生産額や観光客の消費拡大の施策も必要。
- ・来る人によって消費のパターンは分かれており、インバウンドのアップ層にはアクティビティ（体験）のニーズがある。温泉地での余暇の過ごし方として、アクティビティを提供することも有効と考えられる。
- ・別府市は観光産業の比率が高いので、従業員向けのサービス産業や観光業を支える裏方の産業を育成すれば、地域内への経済効果がより大きくなる。地域経済の循環構造について、より詳細に調査することも重要。
- ・別府市は100を超える宿泊施設と多数の関連産業があり、地域としては観光客のターゲットを絞り込むボリュームを超えているが、各自がターゲットを絞り込んでマーケティングをしっかりと行っていくことが求められる。
- ・地域内での消費を高めるため、温泉のみでなく、温泉にアクティビティや観光などを掛け算する必要があり、行政と連携し温泉を活用したアイデアを盛り上げ広告していくことも必要。

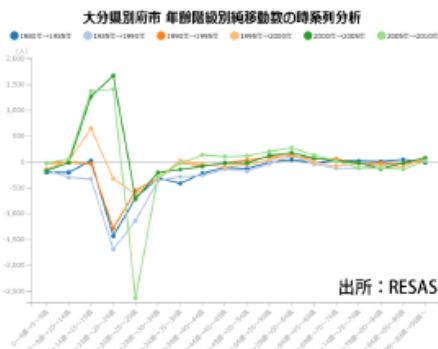
【参考資料】自治体職員によるリーサス分析内容

1. 別府市における地方創生の取り組み – 人口ビジョン



1980年から2040年までの人口推移

- 間違いなく人口は減少する
- 生産年齢人口の減少に伴い、年少人口も減少する
- 老年人口が相対的に増えることにより、高齢化は進み続ける
- 人口減少→地域経済縮小→人口減少...の循環へ



別府市における人口の社会増減の特徴

- 市内大学への進学時に社会増
- 大学卒業～就職の時期に大幅な社会減
- 子育て世代（40歳代まで）社会減
- 40歳～59歳までの間は社会増が続く

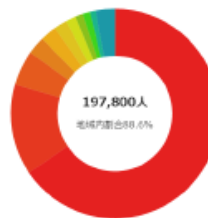
RESAS観光マップでの分析

- 観光客はどこからどれくらい別府に訪れて来るのか？
- RESASを使っでの見える化

大分県別府市 休日 市区町村 → 市区町村

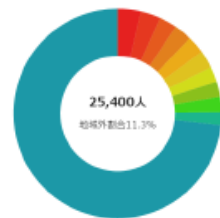
滞在人口合計：223,200人（滞在人口率：1.78倍）
 (国勢調査人口：125,385人)

滞在人口 / 都道府県内
 (市区町村単位)
 2015年



- 滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件
- 1位 大分県別府市 129,500人 (65.4%)
 - 2位 大分県大分市 27,700人 (14.0%)
 - 3位 大分県日出町 10,700人 (5.4%)
 - 4位 大分県自津市 5,500人 (2.7%)
 - 5位 大分県高草市 5,000人 (2.5%)
 - 6位 大分県梓間市 4,000人 (2.0%)
 - 7位 大分県宇佐市 3,200人 (1.6%)
 - 8位 大分県佐田町 2,300人 (1.1%)
 - 9位 大分県津井市 2,200人 (1.1%)
 - 10位 大分県豊後大野市 1,800人 (0.9%)
 - その他 5,900人 (2.9%)

滞在人口 / 都道府県外
 (市区町村単位)
 2015年



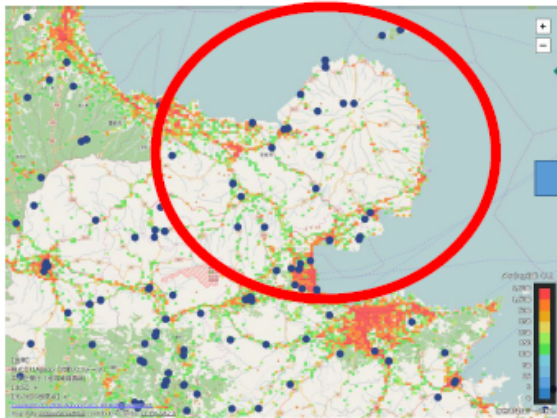
- 滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件
- 1位 高知県高岡町 900人 (3.5%)
 - 2位 福岡県北九州市小倉南区 800人 (3.1%)
 - 3位 福岡県福岡市博多区 700人 (2.7%)
 - 4位 岩手県宮古市 700人 (2.7%)
 - 5位 山口県下関市 700人 (2.7%)
 - 6位 福岡県久留米市 700人 (2.7%)
 - 7位 福岡県福岡市東区 600人 (2.3%)
 - 8位 福岡県北九州市八幡西区 600人 (2.3%)
 - 9位 茨城県鹿嶋市 600人 (2.3%)
 - 10位 熊本県阿蘇市 500人 (1.9%)
 - その他 18,600人 (73.2%)



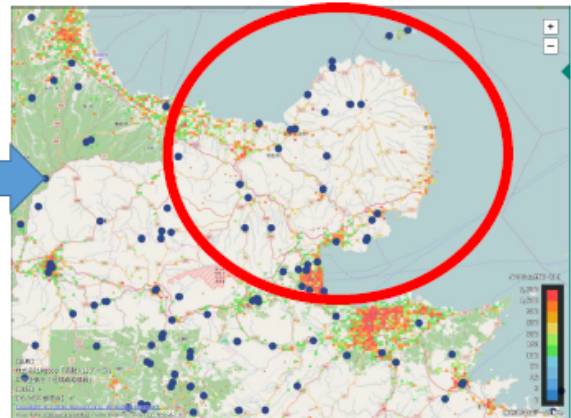
出所：RESAS

2015年11月 休日14時

2015年11月 休日4時

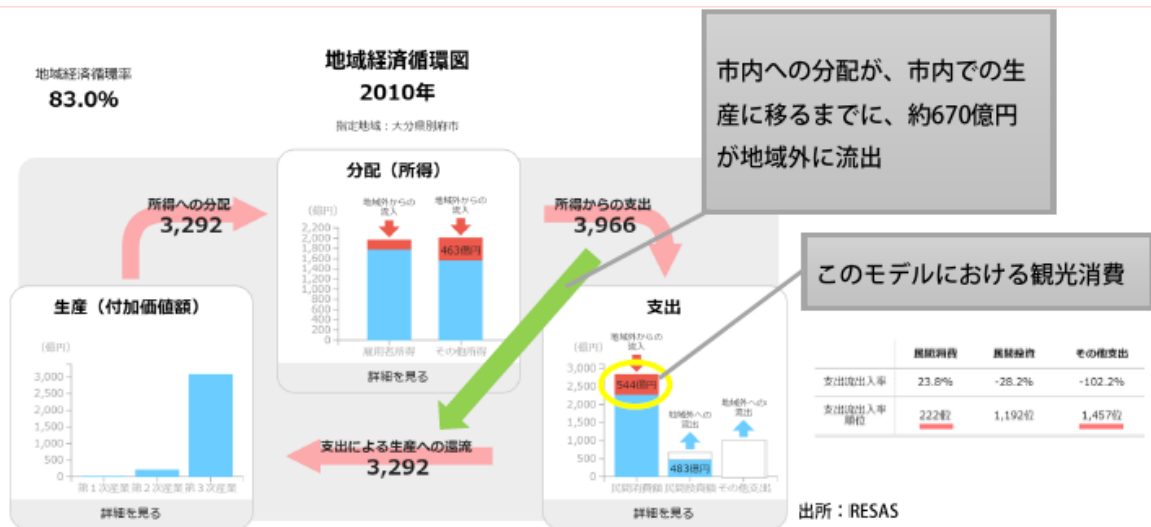


出所：RESAS



出所：RESAS

- 昼間の時間帯において、別府市近隣の千年ロマン観光圏エリアに人の動きが見える
- 夜間（4時）になると、千年ロマン観光圏エリアからは人が減っている
- 千年ロマン観光圏における昼間の人口流動はあるが、まだ十分でないように思える
- 千年ロマン観光圏における人口流動と、別府の宿泊者数の関係はどうか



- RESASの地域経済循環マップを確認すると、別府市においては分配額の年間17%、金額にすると約670億円のキャッシュが地域外に流出している状況
- 特にその他支出におけるキャッシュの地域外への流出が深刻である
- サービス業の移輸出入収支の状況から政府支出が地域外に向かっている

以上